

高等学校

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

国

語

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿

世話人 副世話人

	学 校 名	氏 名
1	都立 八 潮 高等学校	池 田 美 穂
2	都立 南 高等学校	加 藤 昌 伸
3	都立 蒲 田 高等学校	加々本 裕 紀
4	都立 北 園 高等学校	小 寺 克
5	都立 忍 岡 高等学校	岩 城 典 枝
6	都立 水 元 高等学校	西 村 礼 子
7	都立 南 多 摩 高等学校	井 上 小 百 合
8	都立 八王子高陵 高等学校	成 毛 智 子
9	都立 永 山 高等学校	齋 藤 佳 子

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 田 中 均

目 次

研究主題 話すこと・聞くことを通して自ら思いや考えを深める指導の工夫 聞く活動の側面に着目した学習ー

主題設定の理由	2
主題解明の方法	3
1 高校生の言語生活の実態把握	3
2 学習活動の工夫	3
3 学習教材選定の視点	3
4 学習計画の作成と評価の観点の作成	3
5 研究の仮説	3
学習活動と指導の工夫	4
調査	7
1 調査の概要	7
2 調査に当たっての仮説	7
3 調査項目について	7
4 調査結果について	7
5 調査の考察	8
1 現代文の指導の実際	9
1 単元設定の理由	9
2 指導の工夫	9
3 評価の観点	9
4 指導計画	10
5 生徒の学習活動	13
6 生徒に見られる変化	13
7 単元の考察	15
2 古典の指導の実際	16
1 単元設定の理由	16
2 指導の工夫	16
3 評価の観点	16
4 指導計画	18
5 生徒の学習活動	21
6 生徒に見られる変化	22
7 単元の考察	23
研究のまとめ	24

研究主題 「話すこと・聞くことを通して自ら思いや考えを深める指導の工夫」 聞く活動の側面に着目した学習

主題設定の理由

1 高校生の生活実態

「国語に関する世論調査の結果」によると、回答者の8割以上が現在使われている言葉が「乱れている」と考える一方で、これからの時代に必要な言葉の知識・能力として「説明したり発表したりする能力」「考えをまとめ文章を構成する能力」「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」などがあると考えている。しかしながら、教師として見る高校生の言語生活の実態は、仲間以外の他者に対して自己の思いや考えを表現する機会は少なく、また論理的に思考し文章を書くという経験に乏しいという状況がある。これからの時代に必要と考えられている、状況に応じて適切な言語で伝え合うために必要な知識・能力は著しく低下している現状があるととらえた。

2 学習指導要領に見られる国語の力について

「文化芸術の振興に関する基本的な方針」のなかでは、国語について「言葉は、意思疎通の手段であると同時に、その言葉を母語とする人々の文化とも深く結び付いている。このような文化の基盤としての国語の重要性を踏まえ、個々人はもとより、社会全体としてその重要性について認識し、国語に対する理解を深め、生涯を通じて国語力を身に付けていく必要がある」と指摘している。こうした国語力の育成について、学習指導要領では、言語や言語文化に対する理解・関心を深め、言語感覚を磨き思考力を伸ばして、適切に表現し伝え合う力を高めることをその目標に掲げ、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導を通して、バランスのとれた総合的な国語力の向上を目指すことを示している。

3 高校国語科の授業改善の課題

「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(審議のまとめ)」では、「確かな学力」の育成について、「知識や技能と思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などは本来相互にかかわりながら補強し合っていくものであり、両者を総合的かつ全体的にバランスよく身に付けさせ、子どもたちの学力の質を高めていくという視点が重要である。」と述べている。

高校国語科の授業改善に当たっては、学習への積極性や意欲が低下している高校生の学習状況を踏まえ、生徒が問題を主体的にとらえ自ら考える学習態度の習得が大切である。また、日常の言語生活を振り返り改善していく力の育成には、話すこと・聞くことと書くことや読むこととの関連を図った学習が必要である。一方、日常の教育活動の中では、話したり聞いたりすることの学習経験が少なく、指導が十分ではない現状もある。問題意識をもって話や文章の内容を聞き、自らの考えを整理して他者に分かりやすく伝え、互いに思いや考えを伝え合う中で自らの思いや考えを深める力を育てることを目指し、とりわけ話すこと・聞くことを重視して、本研究の主題を『話すこと・聞くことを通して自ら思いや考えを深める指導の工夫 聞く活動の側面に着目した学習』とした。

主題解明の方法

1 高校生の言語生活の実態把握

高校生の言語生活の実態を質問紙法の調査によってとらえた。調査では「話すこと」「聞くこと」について、生徒の意識の在り方と経験のもち方との相関を把握し、分析を行うこととした。

「話すこと」「聞くこと」について楽しかったり役に立ったりする経験がある生徒は、「話すこと」「聞くこと」について考えたり配慮したりすることが多いのではないかという仮説を立てて調査研究を進めた。調査項目は「話す」「聞く」についてそれぞれ経験と意識の領域に分け、プラスの意識が抽出できる質問事項を工夫し、理想的な「話す 聞く」の関係を把握することに努めた。そこから、「話すこと」「聞くこと」について理想的な力を養うためには、生徒にどのような経験（学習活動）をさせればよいかを考え、実践における工夫の手だてを考えた。

2 学習活動の工夫

学習活動の構想では、話したり聞いたりする活動を多く取り入れること、話したり聞いたりする活動について自分たちで振り返る活動を取り入れること、話したり聞いたりすることで言語への関心を高めたり文章を読み深める活動を取り入れることを重視した。

また、朗読を聞き、自分なりに聞き取った文章の内容や思いを他者に話し、他者からの意見を聞くことでさらに自分の読みを深めていくという、一人の生徒が「話すこと」「聞くこと」を繰り返し行う中で「読むこと」の力を高めていく学習過程を構想した。

3 学習教材選定の視点

「読むこと」にふさわしい教材であっても、「聞くこと」にふさわしい教材であるとは限らない。また、とりわけ古典の教材にあるような、本来弾き語りなど、語られる形式であった文学的文章が生徒の「聞くこと」の教材としてふさわしい教材であるとは限らない。

高校生が「聞くこと」の学習活動に取り組む教材の選定の視点を明確にする必要がある。本研究では、次の視点を教材選定の視点とした。

- (1) 聞く力の到達段階を考え、簡潔な文章で、聞くことによって生徒が理解できるもの
- (2) 学習活動を通じて読みを深めるに足る質の高さがあるもの
- (3) 内容の展開が把握しやすく、分量としてあまり長くないもの
- (4) 主題性があり、生徒が思いや考えを日常に即して深めることができるもの
- (5) 文章の描写力があり、生徒が情景を思い浮かべることができるもの

4 学習計画の作成と評価の観点の作成

学習した内容を自ら確認して新たな学習課題を見付けたり、他者からの評価を得ることでより深い学習課題を見付けたりする活動を重視した。そのために、生徒が考えや思いを交換し合う相互評価を学習計画の中に位置付けた。また、生徒が自己の学種の到達段階を把握しやすいようワークシートを工夫するなど、自己評価の機会を取り入れながら教師からの評価を受けるように、学習計画を作成し教師が指導の際の目安とする評価の観点を合わせて作成した。

5 研究の仮説

文章の内容について自分の思いを話すこと、文章を聞くことや他者の思いや考えを聞くこと、話したり聞いたりしたことを振り返ることで自分の思いや考えを深めることができるであろうと考えた。

学習活動と指導の工夫

1 学習活動の工夫

(1) 聞くことの活動の工夫

聞く活動にはさまざまな側面があるが、本研究を進めるに当たっては、単元の学習活動を通して以下のような側面をとらえて指導の工夫をすることが必要であると考えた。

聞き分ける活動	話された内容を正確に聞く
聞き入る活動	話された内容について自分の興味・関心などに応じてさらに詳しく聞く
聞き返す活動	話された内容について確認したい部分や疑問に思う部分を聞く
聞き浸る活動	話された内容を自分なりに受け止め情景などを思い浮かべて聞く

本研究では、聞くことの4側面と、学習の進展につれて自分なりに読みを深めていく過程とを関連付けて学習活動を構想した。

(2) 話すことの活動の工夫

話すことの活動に当たっては、伝えたい内容や目的を明確して意識的に話すこと、伝える相手を考えること、わかりやすい話し方を工夫することが大切である。本研究では聞き取った内容や自分の考え等を発表し合い、それを聞き合う学習活動を多く取り入れた。

自分なりに聞き取ったり読んだりして感じたことや考えたことを的確に他者に伝えるためには、しっかりと聞くことが大切であると気付いたり、聞く際に注意したことがそのまま他者に自分の思いや考えを正確に伝える際のヒントとなると気付くことなどが大切である。そして、このように聞くことの活動と話すことの活動とは相互に密接にかかわり、それぞれの活動を深化させるのに役立っていると気付くことで、よりよく聞くことやよりよく話すことに対する意欲や関心が高まると考えた。

(3) 読むことの活動の工夫

読むことの活動に当たっては、他者からの感想や意見を受け止めることによって自分なりの読みを振り返り、気付かなかった点や改めて大切だと思える点を発見することを通して読みを深めていく過程を構想した。

また、読みを深めていく際に聞いたり話したりすることが有効であると実感できるよう、読みの過程を振り返ることを重視した。その手助けになるものとしてワークシートを準備し、自分の感想や意見を記入する欄・他者の感想や意見を記入する欄・他者の感想や意見を聞くことによって深められた自分の感想や意見を記入する欄を設けた。ワークシートが完成する過程を通して、聞くこと・話すことによって自らの読みが段階的に深められていったことを確認できるように工夫した。

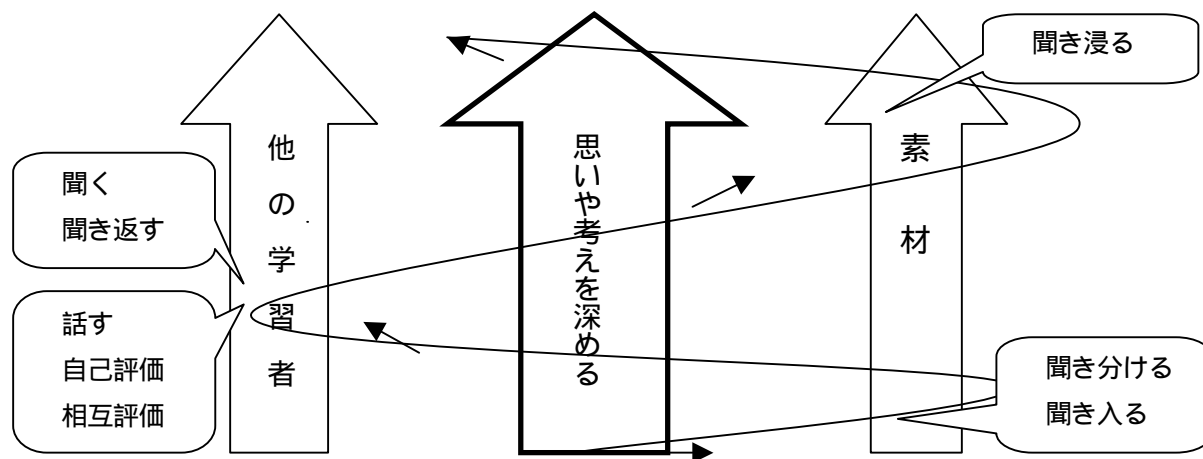
2 指導の工夫

現代文教材においては、あらかじめキーワードからイメージされることを相互に発表し、文章に描かれた情景を身近に感じられるようにした。

古典教材においては、当時の人々の暮らしぶりや内容理解の助けとなる挿絵を紹介し、古文の聞き取りに対する抵抗感が少なくなるように工夫した。

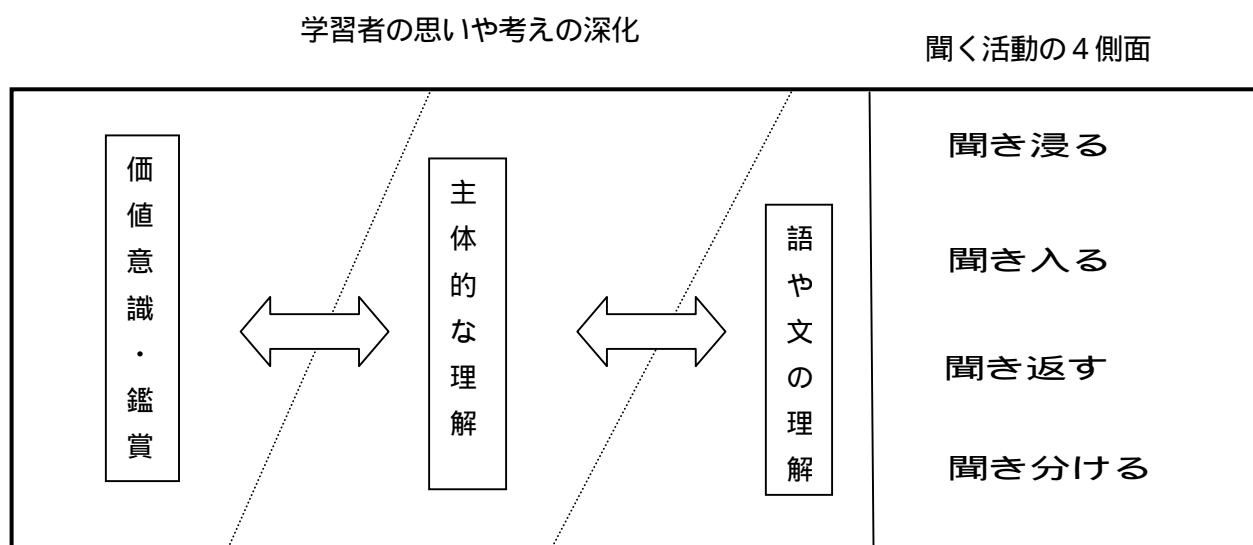
ワークシートの内容を工夫し、自らの読みが他者の意見等を聞くことにより段階的に深まっていくことを確かめられるようにした。

(図 - 1 生徒が取り組む学習の筋道)



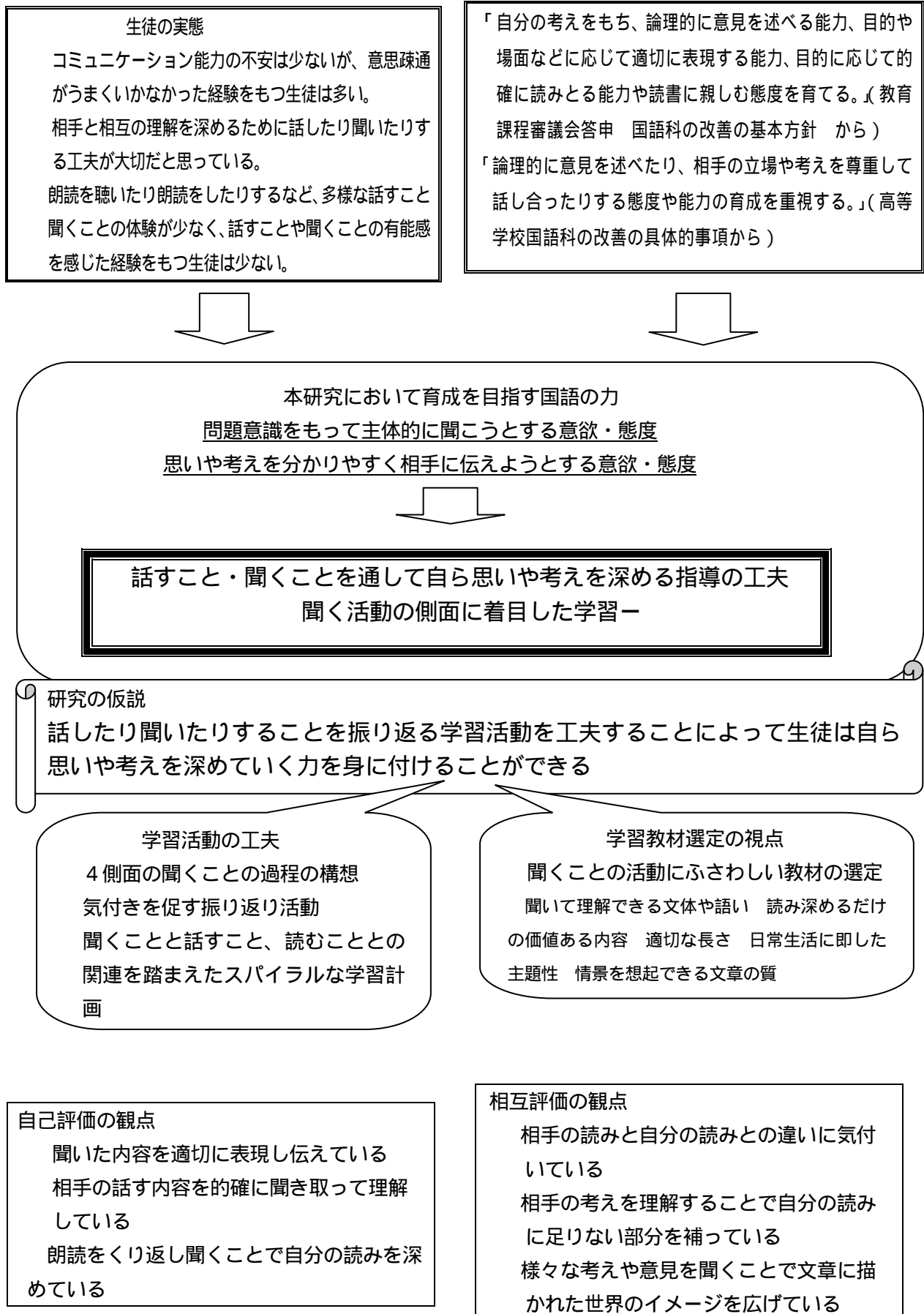
本研究の学習活動の中で、生徒が「聞くこと」「話すこと」を繰り返し行い、思いや考えを深め、「読むこと」の力を高めていく学習の筋道をイメージしたものが上図である。生徒は最初、文章の朗読を正確に聞き分ける。次に文章の内容について、ワークシートの項目を手がかりにして詳しく朗読に聞き入る。自分の聞き取れなかった部分や自分で必要と思った内容などについて何度でも聞き返し、より深く朗読に聞き入る。そして、自分の聞き取ったことを他者に話し、他者からの意見を聞くことで、さらに

(図 - 2 文章に対する思いや考えの深化と聞く活動)



「聞き分ける」「聞き入る」「聞き返す」「聞き浸る」という4側面の「聞く」活動が相互に作用しあうことで、学習者の意識が変容し、語や文の理解、主体的な理解、自分の価値意識をもった鑑賞が深まっていく。それをイメージしたのが上図である。学習指導要領では「文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと」を指導の内容として挙げている。「人物、情景、心情などを的確にとらえ」ることは、「語や文の理解」をもとに描写と描写の関係をとらえようとしたり、登場人物や作者の視点に立って読んだりするなど「主体的な理解」に進んでいく。そして「表現を味わうこと」ということは、文章に対して自分なりの意味付けをする「鑑賞・価値意識」にあたり、これらの読むことの側面を行き来しながら読みが深まっていくと考えた。

研究の構想図



調査

1 調査の概要

高校生の生活のなかで、「聞く」力の低下が「話す」力の低下につながっているのではないが、聞いたり話したりはしているが、自覚的ではなく、自分なりに論理を立てて考え、筋道を立てて話をする力などが弱くなっているのではないかと思われる現状がある。高校生の「総合的な言語能力を養う」ことが大切であり、そのためには、国語の授業の中で「話すこと・聞くこと、書くこと及び読むこと」の言語活動を相互に密接な関連を図りながら実践する、「国語総合」内容の取り扱い）が必要である。調査に当たっては、「話すこと・聞くこと」の経験がどのような意識や行動と関連があるかについて明らかにすることをねらいとし、質問紙法によって都立高校4校の計620名を対象に調査を行った。

2 調査にあたっての仮説

「話すこと・聞くこと」の積極的な経験が多い生徒は「話すこと・聞くこと」について高い意識をもち、自分の思いや考えを深めることにつながっている、というのが調査の仮説である。

3 調査項目について

「話すこと・聞くこと」について、日常生活における経験と日常生活の中での意識について「よくある」「時々ある」「あまりない」「まったくない」の選択式で頻度を調査した。「生徒の言語生活の経験」と「日常どんなことに気をつけているか（意識）」とに分け、「話すこと・聞くこと」について合計46項目の設問で尋ねた。

「話すこと」の日常生活の経験では、「相手を説得したことがある」「気に入った文章を暗誦することがある」など積極的な経験と「言いたいことをうまく言えないことがある」「話がつまらぬと言われることがある」などの消極的な経験を尋ねた。「聞くこと」の日常生活の経験では「話を聞いて相手の心情を理解したことがある」「話を聞いて自分の意見や考えを深めたことがある」などの積極的な経験と「話のポイントを聞き漏らしたことがある」「相手の話を最後まで聞けなかったことがある」などの消極的な経験を尋ねた。

「話すこと」「聞くこと」の日常生活の意識では、「相手の言語レベルや思考レベルに合わせて話題を選ぶようにする」「自分だけが一方的に話さないようにする」「相づちを打ちながら聞くようにしている」「相手が話しやすいような雰囲気を作るように心がけている」など積極的な意識の在りようを尋ねた。

4 調査結果について

調査の結果次の点が明らかになった。

- (1) 日常生活の経験については、「話すこと」では積極的な経験が多く、「聞くこと」については消極的な経験が多い。日常生活の意識については、「話すこと」では積極的な意識が強く、「聞くこと」では消極的な意識が強い。つまり、友人同士などプライベートな場面ではほとんどの生徒が積極的に会話を楽しみ、その経験から「話すこと」への意識も高まっているが、「聞き取る」「聞き入る」「聞き浸る」等の自覚的に「聞く」経験は少ないため、「聞くこと」への意識は高まっていない。
- (2) 日常生活の経験では、「話すこと」と「聞くこと」の相関が強く、いずれの経験でも積極的な経験をもつ生徒と消極的な経験をもつ生徒に分化している。具体的には、「大

勢を前にして話すことがある」という積極的な「話すこと」の経験がある生徒の多くは「ラジオの語学番組を聴いたことがある」という積極的な「聞くこと」の経験もしている者が多い。また、「言いたいことをうまく言えないことがある」経験の多い生徒は「人の話を聞いていないと言われたことがある」経験の多い生徒と一致する。「楽しく会話をしている」経験が少ない生徒は「話を聞いて自分の意見や考えを深めたことがある」経験の少ない生徒と一致する。

同じ傾向は日常生活の意識の面でも見られ「話すこと」「聞くこと」いずれの意識も消極的な傾向の強い生徒とそうでない生徒との分化が見られる。「相手の反応を見ながら話すようにする」「内容を整理してから話すようにする」意識が低い生徒は、「事実と意見を区別する」「情景を想像する」「相手の言いたいことを整理する」「話し手の意図を考える」「話の展開を予想する」等の意識も低い。

(3) 「話すこと」の日常生活の経験で積極的な傾向の強い生徒は日常生活の意識でも積極的な傾向が強い。一方、日常生活の経験で消極的な傾向の強い生徒であっても日常生活の意識では積極的な傾向が見られ、意識はあっても生活の場面では生かされていないことがうかがえる。「あらたまった場面で話す」「大勢を前にして話す」経験が高い生徒は当然「相手の反応を見る」「話すときの表情やしぐさを意識する」「目的や場面で話し方を区別する」意識が高かったが、同じ設問に対し経験が低いと回答した生徒であっても意識については高い回答をしていた。

(4) 「聞くこと」の日常生活の経験で消極的な傾向が強い生徒も積極的な傾向が強い生徒も、日常生活の意識では消極的な傾向が見られ、「聞くこと」についての意識が希薄であることがうかがえる。「情景を想像し」たり「相手の言いたいことを整理し」たり「話し手の意図は何かを考え」たり「話の展開を予想し」たり、といった表面的に「聞く」レベル以上の聞き方を心がけること、つまり聞き入ったり聞き浸ったりする意識はしていないという集計結果が出た。また、「メモを取りながら聞く」といった社会生活上必要と思われる意識項目についても、多くの生徒が低い回答をしていたことは特記に値するであろう。

5 調査の考察

調査結果から「話すこと・聞くこと」の積極的経験が多い生徒は「話すこと・聞くこと」について高い意識をもっている傾向があることが分かった。しかし、積極的経験が多いと回答した生徒のすべてが高い意識をもっているとは言えず、また逆に積極的経験が少なくても意識の高い生徒もいる。これは、「話すこと・聞くこと」だけでなく、「書くこと・読むこと」との関連や個々の生徒の生活範囲の差異との関連を考える必要があるのではないかとと思われる。

いずれにしても、「話すこと・聞くこと」について、生徒の経験を増やしつつ意識を高めていく学習活動の工夫をすることが必要であることが分かった。その中でも特に「聞く」ことについては、「聞く」レベルにも段階があり、表面的に「聞く」だけでなくもっと深い段階の「聞く」経験や意識をさせることに重点を置く必要がある。また「話す」「聞く」相互の活動を組み合わせることによって「話す力」「聞く力」ともに向上させ、自ら考えや思いを深めることにつながるであろうことがこの調査から分かった。

- 1 現代文の指導の実際

1 単元設定の理由

本研究の調査で、現在の高校生は「話すこと・聞くこと」について非常に関心が高く、また意識も比較的高いことが分かった。その一方で、表面的なコミュニケーションで終始していたり、人の話や朗読などに聞き入ったことがほとんどなく、様々な想像をめぐらしながら聞いたたり話したりする経験に乏しいことがうかがえた。

文章の題や朗読の中に出てくるキーワードを聞き取りながら、大切な言葉を手がかりにして生徒が主体的に自分なりの読みを深め、さらに他の生徒の思いや考えを聞くことで思いや考えを自ら深める力を育てることができると考えた。

本単元では、教材として取り上げた文章を最後まで配布せず、朗読を聞くことでイメージをふくらませたり、登場人物の心情を想像したり、互いに意見を発表し合いながら思いや考えを自ら深める学習計画を構想した。

教材として、太宰治の小説『待つ』を取り上げた。この文章に登場する主人公が何を待つのか、様々な解釈することが可能な文章である。自分の意見を発表したり、他人の意見を聞くことで、生徒が自ら思いや考えを深めることに適した文章であると考えた。主人公「私」が待っているものが何かは文章中にははっきりとは表現されていない。しかし、考える手がかりになる言葉が文中にいくつかあり、生徒なりにその言葉を朗読から聞き取って、言葉と言葉の関連を考え思いを広げることによって、イメージを一層ふくらませることができるのである。ワークシートでは、生徒の聞く力の到達段階を考慮し、考える手がかりとなる重要なキーワードをあらかじめ設定して学習項目を作った。また、他の生徒の意見を聞き取り、それについての自分の意見や疑問点を記入できるように配慮した。それにより、生徒が自ら文章について興味・関心をもち、自分の思いや考えを深め、主体的な学習活動に取り組むことをねらいとした。

2 指導の工夫

テキストを配布しないことで、文字情報に頼らず「聞くこと」に集中させた。

キーワードに応じて「聞き分ける」ことができるよう、ワークシートの設問を対応させた。聞き返すことを通じて、自分が聞き分けることができなかった部分を確認できるようにした。

ワークシートの項目を整理して、生徒が思いや考えを深めることができるようにした。

ワークシートの項目を整理して、生徒が自分の意見を分かりやすく発表できるようにした。文章を細かく区切って読んだり、繰り返し読んだりして教師の朗読の仕方を工夫した。

3 評価の観点

文章の朗読を聞く活動を通して、主体的に聞き分けている。

思春期の心理の揺れや社会の動きの中で生きる個の有り様について考えている。

抽象的な表現や比喻表現から「私」の思いを想像し、朗読に聞き入っている。

発表や意見交換を通して、自分の思いや考えを深めている。

深められた自分の考えの上に立って作品をもう一度聞き、朗読に聞き浸っている。

「聞くこと」の楽しさに気付いている。

4 指導計画

(1) 単元の目標

文章の朗読を聞き、話し合うことを通して思いや考えを進んで伝え合おうとする。(関心・意欲・態度)
 文章の朗読を聞きながら文体や語いの特色を味わうことを通して進んで文学的な文章に親しもうとする。(関心・意欲・態度)

文章についての自分の思いや考えを話したり、朗読を聞くことや他者の思いや考えを聞いたりすることを通して、筋道を立て効果的に話したり的確に聞き取ったりする。(話す・聞く能力)

自己評価、相互評価をすることを通して、文章についての自分の思いや考えを深める。(読む能力)

様々な聞く活動の側面に即した学習を通して、的確に聞くことに必要な力を身に付ける。(知識・理解)

(2) 教材 「待つ」(太宰 治)

(3) 学習活動の概要(6時間)

時数	生徒の学習活動	指導上の留意点 評価の観点
1 (本 時)	学習の目標を知る。 題名「待つ」から文学的文章の内容を予想する。	文章の内容を聞き取るためにしっかりと聞くことを注意する。 各自のイメージで書くよう指示する。
	自分なりにイメージがわく場面をみつけながら朗読を聞こう【聞くことの活動】	
	区切りながら読まれる文章の内容を聞く。 文章の全文を聞き終えて、印象に残った言葉や表現を書き出す。 文章の内容として描かれていることを端的にまとめて書く。	できるだけ丁寧に読み、基本的な誤解がないように確認し、難解な語句には注を加える。 文章の内容の概要を捉えている。 思いつくままに書かせる。 自分なりに言葉や表現を印象に残している。 「私」の思いを捉えている。
2	文章の全文を聞く。	前時の内容を確認させながら聞かせる。
	場面の様子に注意して聞こう【聞き分ける活動】	
	「私」が何を待っているのかについて、4つの部分に分けて聞き取り、文章の内容把握のためのワークシートに記入する。(ワークシートAの1~4)	聞き分けるべきことをあらかじめ指示する。聞いた部分ごとに書かせる。 1回で聞き取れなかった生徒には、個別に繰り返し聞かせる。 的確に聞き取っている。 聞き取ったことを書いている。
3	「私」が待っているときの心境について聞き取る。	聞き分けるべきことをあらかじめ指示する。 「私」の心境が表れている部分に注意させ聞かせる。
	気持ちを想像しながら聞こう【聞き入る活動】	
	「私」の心境が表れている表現を書き出し、全文を聞く。 「私」が待っているものは何か、そのように考えられる根拠は何かについて文章を読み深めるためのワークシートBに自分の考えをまとめる。	「私」の心情をうまく聞き分け、書いている。 自分の考えをまとめられるよう、しっかりと聞き取れることを注意する。 自分の考えとその根拠を書いている。 回収したワークシートは、類型化して分類しておく。

		く。類型ごとの発表者を選んでおく。
	発表を聞いて、自分の読みを考えるための視点を示したワークシートCを読み、本時のめあてを確認する。 類型ごとの代表に選ばれた生徒が発表する。	ワークシートBを返却し、ワークシートCを配布。本時の説明をする。本時は、発表者の意見をよく聞き、自分の考えを書くよう指示する。 自分の意見がしっかり伝わるよう、はっきりと話すよう注意する。
	メモをとり、聞き返すことを考えながら聞こう【聞き返す活動】	
	質疑応答 発表を聞き、その内容について聞き漏らしたところや聞き取れなかったこと、自分なりに気付いた点や意見、疑問に思う点などを聞き返して確認する。	発表者は、皆に伝わるように話している。他の生徒は、発表者の意見を的確に聞き取っている。 ワークシートを書くにあたって、うまく聞き取れなかったことや疑問点は確認することを指示する。 進行は教師が行う。
4	聞き取れなかったことや疑問点を確認しよう【聞き返す活動】	
	発表者以外の生徒はワークシートを書く。	メモをとりながら聞き、発表者の意見と自分の考えをきちんと分けて書くように注意する。 自分の考えと発表者の考えの差異が分かっている。 発表者の考えを聞くことで自分の考えを深めている。 ワークシートにきちんと記入している。
5	「私」が待っているものは何かを考え文章の主題を捉えるワークシートDに書く。 教師の解説を聞きワークシートにメモをしながら、自分の読みを深める。 本時の最初に書いた自分の考えと教師の説明をもとに、最終的な自分の考えをワークシートに書く。 ワークシートDを提出する。	ワークシートDを配布する。 文章の背景や作者についての説明し、さまざまな読み方を整理し説明する。 聞きわけてメモしている。 最終的な自分の考えを書かせる。 教師の説明を聞き、さらに自分の思いを深めている。
6	1.「私」にとって「待つ」とはどういうことを意味するのか、2.なぜ待ち続けているのか、3.待ち続けた先には何があるのかについて考えるワークシートEに目を通し、本時が最終のまとめの時間であることを認識し、1～3について自分の考えを書く。 文章の全文を聞く。	ワークシートDを返却。ワークシートEを配布して、本時の内容の確認をする。これまでの学習活動を思い起こさせ、1～3を書かせる。 作品を聞き深めて理解し、自分の考えをまとめている。 これまでの学習活動で深まった思いや考えに基づき、文章世界に聞き浸る。
	イメージをふくらませながら、朗読を聞き味わおう【聞き浸る活動】	

(4) 本時の指導(第1時)

本時のねらい

朗読を聞いて文体や語いの特徴を感じ取り、進んで文章の内容を聞こうとする意欲や関心・態度を育てる。

少しずつ文章の朗読を聞くことによって自分なりに文章の内容を理解するために必要なことがらを聞き取る。

朗読を聞きながら文章の内容に対する自分なりのイメージをもつ。

	学 習 活 動	指導上の留意点 ・ 評価の観点
導 入	<p>学習の目標・作者・作品名を知る。</p> <p>「待つ」という言葉から連想することを、ノートにメモする。</p>	<p>本学習の最初の時間であるので、「聞く」ことを主眼とした内容であることをきちんと伝え、文章の内容をしっかりと聞き取らせるようにする。</p> <p>作者・作品の詳細には触れない。</p> <p>題名「待つ」から想像できることを、各自のイメージで書くように指示する。</p> <p>「待つ」という言葉の印象を自分のなかで作っている。</p> <p>文章の中身に主体的に関わっていく動機が高まる。</p>
展 開	<p>区切りながら読まれる文章を聞く。主人公「私」の性別・年齢・境遇・何をしているか等について確認する。</p> <p>読まれる文章を聞きながら、自分なりにイメージがわく場面を見つけ、印象に残った言葉や表現をノートに書き出す。</p>	<p>教材が手元にないという生徒の抵抗感を考えて、できるだけ丁寧に読む。</p> <p>基本的な誤解がないように確認し、難解な語句には注を加える。(省線・大戦争・不埒)</p> <p>文章の内容のあらましを捉えている。</p> <p>思いつくままに書かせる。</p> <p>自分なりに印象に残る言葉や表現を捉えている。</p> <p>場面を具体的にイメージしている。</p>
ま と め	<p>この文章で描かれているのはどのようなことか。描かれている内容を端的にまとめてノートに書く。</p>	<p>で書いた、印象に残った言葉や表現をもとに、自分が捉えたことを書かせるようにする。</p> <p>自由に書かせる。</p> <p>「私」の思いを捉えている。</p> <p>自分の捉えた内容を、 の言葉や表現を用いて端的にまとめている。</p>

5 生徒の学習活動

一時間目は、はじめに「待つ」という文章の題名について、自分が思い起こすイメージを自由に考えさせ、ノートに記入させた。次に、文章を区切りながら教師が冒頭の部分について朗読を行った。生徒には朗読を聞こうとする態度が見られ、文章の内容をよく聞き取っており、印象に残った言葉や表現を書き出す作業もスムーズに行っていた。

二時間目は、全文の朗読を通して聞かせ、その後、部分朗読を聞かせて「私」が何を待っているか、と教師から問題を提起しワークシートAを用いて考えさせた。まとまった長さを要約しながら課題を考える必要のある部分について、繰り返し朗読することを要求する生徒もいた。

三時間目は、待っている時の「私」の心情を自分なりに想像し思いを深めることを学習課題として示し、全文の朗読を聞き分ける活動を行った。次に学習課題を具体的に考える手がかりとして、「私」が何を待っているのか、どのような表現をもとにそのように考えたかを明らかにすることを指示し、全文の朗読を聞き分ける活動を行った。意見発表が近いことを意識してか、真剣に聞いている生徒が多かった。

四時間目は、三時間目に考えた内容について、何名かの生徒が発表を行った。話し手の生徒は、落ち着いた態度と声で自分の意見を発表していた。聞き手の生徒も、友人の意見に興味を感じているようで、発表者の方を向き内容を聞こうとする態度や、発表を聞きながらメモを取る態度が見られた。

五時間目は、四時間目に聞いた友人の意見を踏まえた上で、改めて「私」が待っているものは何かを考えさせた。その後、教師が作者についての解説を行い、ワークシートに必要と思ったことなどをメモさせ、自分の考えをもう一度見直すようにした。

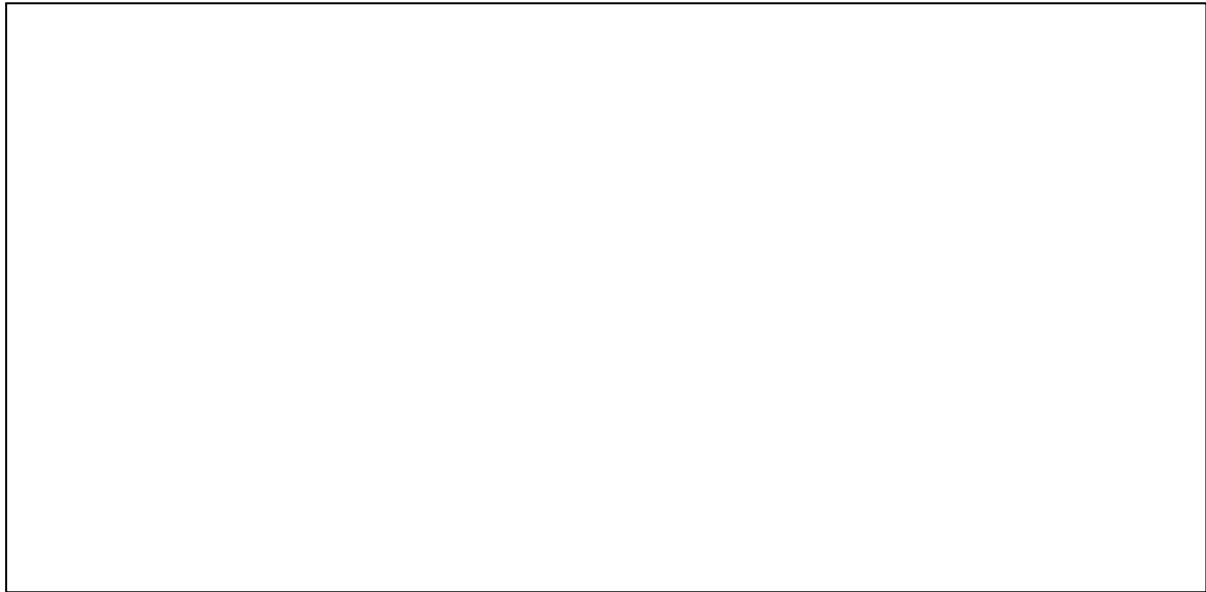
六時間目は、これまでの学習活動を振り返り最後のまとめをする時間である。文章の主題を生徒なりに理解し思いや考えを深めさせるためにワークシートに学習課題を示し考えさせた。単元の最後に教師が全文を朗読し、生徒は文章に描かれた世界に自分の思いや考えを重ねて聞き浸り、文章を鑑賞することを行った。

6 生徒に見られる変化

(1) 「聞く」ことに対する意識・関心・態度について

「聞く」ことを通して鑑賞を深めるという活動は、ほとんどの生徒が初めてだったようである。最初、戸惑いや好奇心の入り交じったような反応や発言があった一方で、不慣れな活動への緊張があった。また、普段から受動的な学習が多いため、聞いた内容を自分なりにノートに取ることに不安を覚える生徒も多かったことが後の「最終評価シート」に記されている。

文章の内容を聞き取って内容を把握するにつれ、様々な予測をもって聞いている様子が見受け



られるようになった。「待っているもの」についての答えも、文章の内容を踏まえた答えが見られた。また、文章の登場人物をさまざまに想像しており「自分を変えるきっかけ」「自分を必要とする人」を待っているというように、生きる指針を求めている人物ととらえた答えが見られた。「戦争の終わり、明るい未来、平和な時代」「信頼できる人間関係」など登場人物の置かれた社会的な位置や時代的な背景などへ思いを至らせている答えも見られた。最初のぼんやりした印象が具体的な考えや意見に高められてきているという手応えがあった。意見発表の段階で発表者がはっきりとした口調で考えを整理して発表した点から、多くの生徒が文章を自分なりに消化したという自信をもってきたことがうかがえる。聞く側の感想にも「発表者自身の考えが多く聞かれた」「自分にはない考えに触れることができた」など様々な意見に触れることに対する新たな発見を示すものがあった。また「問題は何をその人が重視しているかだと思う。」と課題を客観的にとらえ多様な視点をもち始めている生徒もいた。

考えをまとめる段階で、多くの生徒が部分的に他者の意見を取り入れながら、さらに自分の意見を深化させていた。他人の意見に左右されず他人の意見をきっかけに自分の思考を深め、高めることができた点は学習活動の成果であるといえる。

単元のまとめでは文章の主題について自分なりに意味づけをする生徒が増えた。導入時の「待つこと」のとらえかたと比べ、学習活動を通して自分なりの意見が育ってきた。また、主題に対して「自分から行動しないで受身では何も変わらない」など批判的に自分の意見を述べる生徒も増えた。

単元の学習活動を通して、文学的文章を読むに当たって、文章の内容や表現を踏まえながら文章の主題について自分の意見や体験と



照らし合わせて考えることが次第にできるようになってきた。生徒は自分なりに文章に近づき、自分なりの思いや考えを伸ばしていったのである。

(2)「聞く」技術の変容

単元の学習活動では文字で書かれた文章を提示しなかった。生徒ははじめから「聞き分ける」活動で集中力を要し、教師が部分的な朗読や全文を通しての朗読を繰り返したことや適度な学習課題を与えたことによって、メモを取りながら聞くなど聞く活動に具体的な変容も見えた。後半では内容を予測しながら「聞き入る」という段階に達した生徒も見受けられた。

また、友人の意見を聞き、参考にするという過程も取り入れた。この過程を通して文章の内容に対する理解が深化し、文章に描かれた世界のイメージが確立したようである。

7 単元の考察

「聞くこと」の学習の性格上緊張の持続が必要とされる点が積極的な取り組みに結びつき、内容理解を高めたことは、大きな成果であった。また、そのようにしっかりと内容を理解し、教材と真剣に向き合う姿勢が、自己発見や他者理解につながったことで、生徒は達成感や充実感をもつことができたと考えられる。

「読むこと」「書くこと」を中心とした国語の授業に慣れていた生徒たちにとって、「聞くこと」を取り入れた授業は、新鮮な試みであり興味や関心を喚起する。今後このような授業を行う

上で聞くことに適した教材の選定や発展性をもたせるための授業計画の工夫については、なお検討の余地がある。聞くことを学習計画に取り入れ、受身になりがちな一斉授業の中で話したり聞いたりすることをうまく活用することで、生徒の意欲向上に結びつくことは生徒の「最終評価シート」の肯定的な回答結果にもあらわれている。聞くことは受身に待っていることだと思っていた生徒たちが、進んで文章の内容に向き合う姿勢をもつことで、自分の思いや考えを深めた実感できたことは、今後の国語の授業改善に大きな意味をもつと考える。

聞き方の大切さに気付いた生徒
聞くことはわりと得意でリスニングは好きだ。要点を聞き取って文章にしていくのは少し難しかったが、相手の伝えたいことを理解するには大切な授業だ

生徒の発言

聞くことに集中した経験を振り返る生徒
今回初めて文字を見ずに聞くことに集中して「これはどういう意味で言ったのか」「ここで『私』はこういうことを思っていたのではないか」といろいろ想像できて面白かった。「待つ」の話の本当の意味ははっきりとは分かりませんが、みんなでそれについて考え、他の人の考えを知ることができてよかった。

- 2 古典の指導の実際

1 単元設定の理由

本研究での調査を踏まえ、国語科の授業のなかで「聞くこと」の力を高めるためには、聞く学習経験を与えるとともに聞いた話の内容を自分なりに理解しながら話のストーリーを再構築していく学習が必要である。また、「聞くこと」の力が高まることで、今までの思いや考えを見つめ直し深みを増していくことができると考えた。本単元では、文章を配布せずに朗読を聞き物語を読み進め、意見を発表し合って思いや考えを深める学習計画を構想した。

とりわけ高等学校の古典の学習では、生徒の中学校での古典学習の経験や古典に接する言語的抵抗感への配慮が十分とは言えない実態がある。本研究に当たっては、現代文と基本的には同じ学習活動の計画を立てながら、文章の内容に触れることの面白さを重視し、丁寧に文章のストーリーをおさえながら古典の文章の特性を理解することを目指した。

教材として、挿絵を有効に活用することのできる『北越雪譜・寒行の威徳』を選定した。古文学習に当たっては、文体や語い、文法事項が現代語と大きく異なる点が、学習者に強い抵抗感をもたらす場合がある。抵抗感を緩和し学習活動に円滑に入ることができるよう、物語を理解する手助けとなる挿絵を早い時点で配布した。また、登場人物や出来事を「聞き分ける」、場面を想像しながら「聞き入る」、わからなかった部分を「聞き返す」、主題や作品世界全体に「聞き浸る」という段階に応じて、生徒が思いや考えを自ら深めることができるよう、ワークシートを工夫した。ワークシートを場面展開に応じて構成し、特に文章に対する思いや考えが分かれそうな部分については他人の意見を書き込むスペースを作った。互いに自分の意見を「話すこと」で、自分と同じ思いや考えに共感したり、異なる思いや考えに触れることで文章に自分なりの新たな発見や意味づけをしたり、ときには反対意見をもつ。それにより、自分の思いや考えをよりいっそう深めることをねらいとした。

2 指導の工夫

白地図や説明文を活用することで、ストーリー理解の手助けとなるようにした。

挿絵を提示することで、古文を聞くことの手助けとなるようにした。

目的をもって聞かせるために、ワークシートの設問と場面对応させた。

聞き返すということを通じて、自分が聞き分けることができなかつた部分を確認できるよう誘導した。

自分は聞いたつもりでも、他人の意見を聞くことで、自ら考え直したり思いを深めることができるようにした。

物語の出来事について留意させ、主題に思いをはせることができるようにした。

3 評価の観点

必要な情報を聞き分け、自分なりの文章の内容に対するイメージを深めている。

ワークシートが進んでいくにつれて、文章に対する思いや考えを深めている。

興味・関心をもって、文章の朗読に注意深く聞き入っている。

他人の意見を聞くことで、自分の思いや考えを振り返り、内容を深めている。

文章に描かれた世界全体のイメージをふくらませながら、朗読に聞き浸っている。

「聞くこと」の面白さや難しさに気付いている。

実行情況の図

登場人物は何人ですか。
どんな人ですか。

田中村の人
米俵をかかっている(1)の話を
作者にはおまかせ)

武士
道で田中村の人に会い、道をゆす
水と怒る。行者に声をかけ、
普通服の田中村の人、
行者(田中村の人)
米俵をかかっている。行者も
アッという間に倒れた。

米俵をかか
二足小判をかき
道をゆすま
のり田中村も
こころを海で
いらん
米俵の横に
まいり
田中村の語り

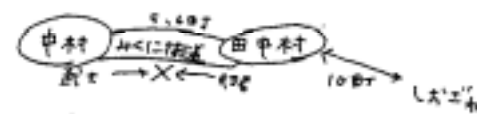
☆登場人物の様子で写し
機った言葉など)
実行者は米俵
米俵をかか
二足小判をかき
道をゆすま
のり田中村も
こころを海で
いらん
米俵の横に
まいり
田中村の語り

① どのようなストーリーでしたか。

田中村の定一行者が米俵をかかいて歩いて、武士に会い、物によけ、と怒られる。定一行者と武士が戦い、定一行者は倒れた。武士は剣を抜いた。定一行者はそのままたつて、しばらくして普通の田中村の人が通りかると、武士はまだ倒れたままだ。事情を知った田中村の人は、定一行者を助け、戻し、武士に武士にどのような出来事があったのでしょうか。旅行の話を聞いて、倒れた。

定一行者が声をかけたため、何かを思ひかたり、道の道に倒れてしま、田中村の人。

行ちながら、田中村の人が定一行者を呼び、武士が謝罪すま、と、どけ、重くなく、と、言、した。



自分と関わり合った内容

行者	行者は米俵をもち、歩く。道に倒れた。武士に会い、物によけ、と怒られる。定一行者と武士が戦い、定一行者は倒れた。武士は剣を抜いた。定一行者はそのままたつて、しばらくして普通の田中村の人が通りかると、武士はまだ倒れたままだ。事情を知った田中村の人は、定一行者を助け、戻し、武士に武士にどのような出来事があったのでしょうか。旅行の話を聞いて、倒れた。
武士	道で田中村の人に会い、道をゆす水と怒る。行者に声をかけ、普通服の田中村の人、行者(田中村の人) 米俵をかかっている。行者もアッという間に倒れた。

自分と関わり合った内容

行者	行者は米俵をもち、歩く。道に倒れた。武士に会い、物によけ、と怒られる。定一行者と武士が戦い、定一行者は倒れた。武士は剣を抜いた。定一行者はそのままたつて、しばらくして普通の田中村の人が通りかると、武士はまだ倒れたままだ。事情を知った田中村の人は、定一行者を助け、戻し、武士に武士にどのような出来事があったのでしょうか。旅行の話を聞いて、倒れた。
武士	道で田中村の人に会い、道をゆす水と怒る。行者に声をかけ、普通服の田中村の人、行者(田中村の人) 米俵をかかっている。行者もアッという間に倒れた。

① どのような道で出会ったのでしょうか。

みくに街道、10町、こころを海で、道は二平に踏み固められて、その一本道以外へ足を踏み入れると、道の途中へ落ちてしまう。

道中では人と人がすれ違う時に、どのようなことに注意していますか。

重いものを持つ、た人が通るときは、その人には道をゆすま、たとい、武士であるも、重い荷物の人を優先する。

すれ違った時、「武士」と「行者」はそれぞれどのようにしましたか。

自分と関わり合った内容

行者は「倒れなれ」と言った。

行者に「倒れなれ」と言った。

米俵の横に倒れた。

行者の話を聞いて、倒れた。

行者は「倒れなれ」と言った。

行者に「倒れなれ」と言った。

米俵の横に倒れた。

行者の話を聞いて、倒れた。

4 指導計画

(1) 単元の目標

文章の朗読を聞き、話し合うことを通して思いや考えを進んで伝え合おうとする。

(関心・意欲・態度)

文章の朗読を聞きながら文体や語いの特色を味わうことを通して進んで文学的な文章に親しもうとする。(関心・意欲・態度)

他者の聞くことの活動を知ることを通して、文章についての自分の思いや考えを深める。(読む能力)

様々な聞く活動の側面に即した学習を通して、的確に聞くことに必要な力を身に付ける。(知識・理解)

(2) 教材 「寒行の威徳」(「北越雪譜」より)(鈴木牧之)

(3) 学習活動の概要 (6時間)

	生徒の学習活動	指導の留意点 評価の観点
1	<ul style="list-style-type: none"> 文章内容の背景等事前学習をする。(ワークシートA) 舞台となる地域を地図と県名で確認する。 挿絵を見て文章の世界のイメージを作る。 本文前段部を読み「行者」について理解する。 	<p>「聞く」ことを前提に学習を進めることを知らせる。</p> <p>自然環境、そこに生きる人々、「行者」についてイメージがもてるようにする。</p> <p>挿絵・地図や説明文を十分に利用している。</p> <p>補足教材「雪中の寒行」を読ませる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 文章に出てくる人物や出来事を聞いてみよう【聞き分ける活動】 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> 全文通読を聞き、登場人物を把握する。(ワークシートB) 挿絵を見て推測しながら、本文を聞く。 	<p>目的をもって集中して「聞き分ける」ことが必要であることを指導する。</p> <p>必要な点を聞き分けている。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の流れを聞き取る。 	<p>適切な注意点を増やしながらしす。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 人物の行為や動作を聞いてみよう【聞き分ける活動】 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を順次書き留め、挿絵を参考にして話のポイントとなる基本的事項を聞き分ける。 文型(「武士に何が起こったか」)に当てはめてあらすじをまとめる。 	<p>聞き取りの注意点を的確に聞き分けている。</p> <p>まとめ方の視点を限定し文型を与えることにより、あらすじの理解を助ける。</p> <p>聞き落とした点に自分で気付いている。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分の朗読を聞きワークシートの質問事項に即して、必要な事項を聞き取る。(ワークシートC) 	<p>質問事項に即して集中して聞き分けることで、生徒が自発的に聞き入るようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 文章の中で起きた事件を聞いてみよう【聞き分ける活動】 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> あらすじをもとに前半部分を読み深める。 何を聞き分けるかを考え、関わりのある部分に聞き入る。 聞き取ったことについて互いに発表し、自分の考えとの差異を聞き取る。 	<p>聞き落とした点を自ら聞き返している。</p> <p>聞き返しには解答を与え理解を促す。</p> <p>他者の発表を聞くことで、自分の聞き取りとの共通点・相違点に気付いている。</p>

4 (本 時)	<ul style="list-style-type: none"> 後半部分に対応した質問事項を考え、必要な事項を聞き取り、登場人物の言動の理由・心情について考えを深める。(ワークシートD) 	<p>積極的に聞くことで読みが深まることを指導する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">面白い場面を思い浮かべて聞いてみよう【聞き入る活動】</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分を確認し、質問項目をもとに後半で何を聞き分けるかを考える。 注意深く聞き、心情や理由について自分の思いが及ぶように聞き入る。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き落とした箇所については、意味のわからない言葉でも、再度聞き返しをしている。 他者の発表を聞き、自他の聞き取りの差異に気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">他者の思いや考えを尋ねてみよう【聞き返す活動】</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取った事項を互いに発表し、自分の考えとの差異を適切に聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞き、共通点・相違点に気付き、自分なりに文章の理解を深めている。
5	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの学習を踏まえ、全体通読に聞き入り文章の主題である「寒行の威徳」について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「寒行の威徳」の本質を考えることができるよう、「威徳」の現れた行為をとらえることで考えを深めさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">主題に思いをはせながら聞いてみよう【聞き入る活動】</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを参考に「威徳」となるできごとをまとめる。 発表を聞き「威徳」にあたる出来事のとりえ方の差異を聞き取る。 資料をもとに「寒行者」の威力の背景にあるものを考える。 文章の流れを意識して武士の最終的な心情を想像する。(ワークシートE) 	<ul style="list-style-type: none"> 「威徳」にあたる出来事の捉え方に差異のあることを聞き取り、「威徳」とは何かについて考えを深めている。 あくまでも全体の流れから外れないように、根拠のある独自の発想を引き出すようにする。 最終的な全体通読に聞き入っている。
6	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートEをもとに、登場人物の個性や立場について相互に意見を交換する。 印刷された本文に目を通し、細かい言葉の確認をする。 最後に朗読を聞き、文章を味わう。 印象に残った箇所について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの読み方について聞き合うことで自分の読みを深める。 多角的なよみの面白さに気付いている。 文字での確認を通して、文法事項や古典単語についても理解させる。 文字で確認することによって、「聞く」ことの面白さや難しさに気付いている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">イメージを膨らませながら朗読を聞き味わおう【聞き浸る活動】</div>	
		<ul style="list-style-type: none"> 最終的な全体の朗読を通して、文章に描かれた世界に聞き浸らせる。

(4) 本時の指導(第4時)

本時のねらい

知りたいことを明らかにして主体的・積極的に聞くことによって文章の内容をより深く把握することができることを知る。

聞き返すことによって相手の伝えたいことを的確に把握する。

自他の聞き取りの差異に気付き、それを参考にして文章の内容に対して自分の思いや考えを深める。

	学 習 活 動	指導上の留意点 ・ 評価の観点
導 入	<p>前時の復習。場面の確認、雪国のしきたり、武士と行者がすれ違ったときの様子、それぞれが雪の中に落ちた時の様子などの描写を思い出させる。</p> <p>友達の意見を聞き、自分の理解の参考とできたかを振り返らせる。</p>	<p>「どのようにしたか」という行動と「どう思ったか」という心情を区別し、確認することを心がける。</p> <p>質問に対して正確に答えている。</p> <p>友達の意見と比較し、自分の意見をもう一度見直してみる。</p> <p>その際、友達の意見の相違点や共通点を整理し、取舍選択して判断している。</p>
展 開	<p>ワークシートDにそって武士と行者が倒れてから武士が田中の者に助け起こされるまでの細かい描写を聞き取る。</p> <p>具体的な事項から互いの心情や言動の理由などを考えることで「聞き入る」ことを行う。</p> <p>互いに発表し、自分の考えとの差異を適切に聞き取る。</p>	<p>漠然と聞くことから脱却して、具体的な箇所について選択して聞き取り、聞き分け、心情などについても思いがおよぶように聞き入る。</p> <p>聞き逃した箇所や、不明な点について主体的・積極的かつ的確に再読を要求している。</p> <p>聞き取り、聞き分けるだけでなく、内容を聞き入っている。</p> <p>質問項目によっては他者の意見を聞いてから再考することを行い、自分の聞き取りの修正などの参考にする。</p> <p>他者の発表を聞くことが、自分の理解に生かされている。</p> <p>自分の意見と他者の意見との具体的な相違点についてしっかりと整理して比較している。</p>
ま と め	<p>田中の者の登場によって話がどのように展開したかをしっかりとつかむ。</p> <p>行者がどんな力を持つ存在なのかを確認しておく。</p>	<p>武士が転んだ遠因をこの段階で読み取っておく。</p> <p>行者がどのような力を持つ存在であるかを読み取っている。</p> <p>武士が転んだ後の状況と行者の力を関連づけて理解している。</p> <p>威徳という言葉に結びつけ考えていくために、威徳にあたる行為へ目を向けさせる。</p>

5 生徒の学習活動

一時間目は、事前学習として「越」の国の位置の確認や行者について教師の説明を受け、挿絵から内容を予想した。これ以後文字情報は一切用いないことを説明したが、生徒は与えられた資料から最大限の情報を得ようとして様々な予想を立てていた。

二時間目は、朗読を聞いても内容を把握できず不安を抱いていた生徒も、示された注意点を手がかりに次第にあらすじを理解し始め、挿絵についての各自の予想をもとに自然と意見交換が行われるようになった。

三時間目は、具体的な質問事項が示されて、的確に内容を聞こうとして、不明な箇所や再度確認したい部分について教師に再読を求めるようになった。また、生徒に適度な緊張をもたらす発表形式をとることで、発表に真剣に耳を傾け自分の考えと比べる姿勢がうかがえた。

四時間目は、「聞き分ける」活動を踏まえ次の段階として心情や言動の理由について考えを深める「聞き入る」活動に入った。十分に聞き分けられなかった生徒は、「聞き入る」活動の際に不明な点が出て、その箇所について再度確認をしている生徒が何人かいた。しかし、このことで、「聞く」ということにもいろいろな意味があることがわかったようである。

五時間目は、まとめ全文の通読を行った。単元はじめの聞き取りの段階から、「寒行の威徳」へ考えを深め内容に「聞き入る」までに発展したことで、自分自身の真剣な聞き取りが深い理解に結びついたという自負を抱いた生徒もいた。

六時間目は、「武士」の愚かさへの批判や信仰への軽視の罰を指摘する者がほとんどであったが、中には「庶民である行者が身分的に高い武士を懲らしめるための策略」と受け取る生徒もいた。こうした生徒は「威徳」の意味を十分に理解したうえで主題についての自分の考えをもち、さらに考えを深めていく過程に入ってきたと考えられる。

単元全体の学習活動を自分で振り返る活動として最終評価シートに記入を行った。授業の意義や自分自身の「聞く」ことに対する関心や能力がどのように変化したかを答えてもらったが、授業の進め方や授業の中で考えたことなどについて、多くの書き込みなどが見られ、主体的に活動に取り組んだことがうかがえた。



6 生徒に見られる変化

国語の授業のなかでは、文章を「読むこと」や「書くこと」という学習活動は多いが、「聞くこと」や「話すこと」学習活動は必ずしも多くなく、また形象にならないことから評価の観点や評価方法の難しさもあって教師の側からの十分な指導も行き届かないことが多い。本研究では本文に関する文字情報を極力抑え、聞くことに生徒が集中する環境をつくり学習活動に取り組ませた。

「読む」力と「聞く」力はどちらも欠かせないものである。しかし、国語の授業では文字による情報に頼ることが多く、聞きながら考えたり聞いたことを尋ねたり聞き返したりすることによって自分の思いや考えを十分に深める学習が少ない。特に古文は「文字」がなければ学習できないといった先入観が教師側にもあるのではなかろうか。

しかし、古文のもつリズムや韻律などに気付き、文章に表れたものの見方や考え方について話し合い生徒が考えを広げていくことで、古典としての古文を読む基礎的な能力を養うことを目指して「聞くこと」の学習活動を古文に取り入れた。

(1) 「聞く」ことに対する意識・関心・態度について

生徒は日常生活の中では聞くことを意識する場面が少ない。また、文字による情報に頼り聞くことへの意識が強くない。「文を見ずに『聞く』ということだけで登場人物やその心情など細かい内容を読み取る授業をする。」単元の冒頭にこのように告げたときの生徒の第一声は「古典を聞くだけでわかるなんて無理。」だった。しかし、「『聞く』授業なのでいつものように文字には頼れない」ことを再度話し、授業に入ったところ、普段よりも聞くことに対して集中し文章に対する関心や意欲も格段に増した。単元終了後の「最終評価シート」にも、「このような授業は集中力が必要である」「いつもは文字があるのであとで見直せばいいという甘えがある」「ぼーっとしていると置いていかれる」などの記述が見られ、「聞く」ことが集中力を要することについて自覚が高まった。主体的な学習活動は教師からの働きかけなしには生まれない。また、生徒が努力すれば克服できる水準の学習課題や学習に当たった適切な課題を仕組みながら学習活動に取り組ませることが必要であり、本研究では内容を聞き取るために集中して取り組むことで、結果として主体的な学習活動を生み出したと考える。

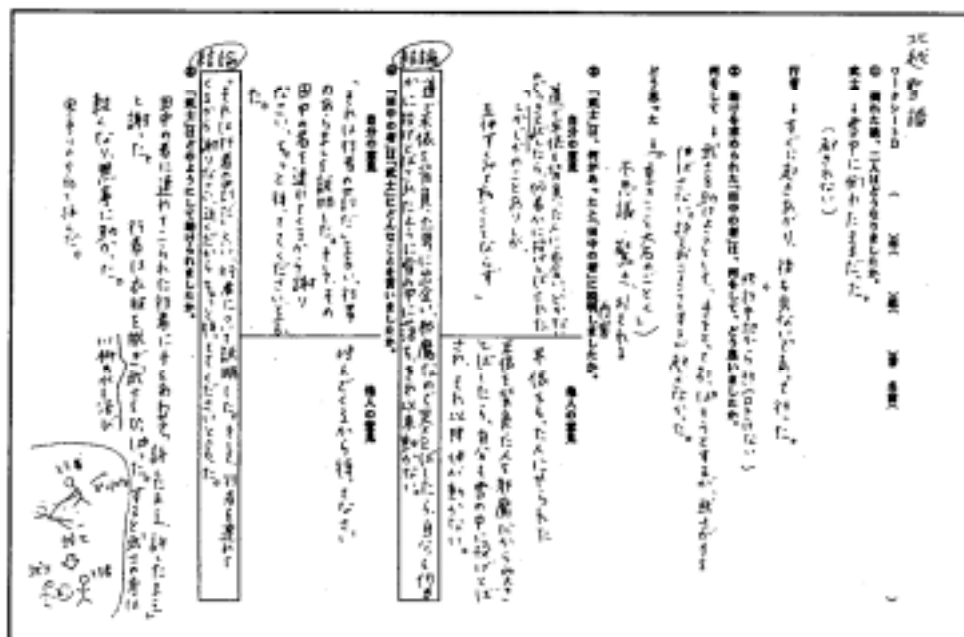
また、「想像力が高まった」「言葉の雰囲気というものを感じた」「古典には音にも面白さがある」というように古文に対する抵抗感が薄れ、文体を感じ取ったり文章の内容を自分なりに読みとったりする肯定的な意見が多かった。ワークシートを手助けにしながら「聞くこと」の活動を通して、言葉そのものに対する感性が養われたということができよう。文章を深く味わうためには何度も読み返すことが必要であると同様に、繰り返し聞くことで文章のもつ力を生徒が自分なりに引き出して読み味わうことができるようになると思う。

「最終評価シート」の「古典の文章を『聞く』ということは難しいと思いませんか」という問いに、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒も、「面白いと思いませんか」という質問には「面白い」と答えていることは興味深い。「難しい」と感じる授業でも主体的に取り組めば「面白い」授業になるという一つの証明である。

(2) 「聞く」技術の変容

今回は、「聞く」ことからの情報だけしか与えないが、要望すれば何度でも、どの箇所でも聞

かせることとした。第一段階で通読した内容を漠然と聞いて全体像をおぼろげながら把握しようとしていた生徒たちであったが、次第にストーリーの核心部分に着目して朗読を求めようになった。最初に漠然



と聞いたことから得た情報を自分の中で整理し、あいまいな部分を埋めていくための情報を自分で選択して聞き取るという段階に進んだ。

今回扱った「北越雪譜」は抽象的な言葉が少なく、場面や人物の心情などを具体的に読み取ることが要求される文章である。行者と武士が雪道ですれ違う様子などは一見簡単ようだが、この前半で背景を踏まえ互いの心情を読み取ることが後半部分での立場の逆転の面白さに結び付く。文章のもつ面白さを味わうためには、聞き取ったことをあいまいにしないようにワークシートを活用し、場面ごとに書き込ませながら、一つずつ読み進めていくようにした。「何となく」理解する程度では学習が進まず、細かい描写を聞き取るよう指導した。教師が適度な学習課題を与えることで、生徒は単に「聞く」だけでなく丁寧かつ正確に「聞き分ける」「聞き入る」「聞き返す」「聞き没る」ことを経験したのである。

また、特に正確な聞き取りが要求される部分については、友達の見聞き参考にするという過程も取り入れた。これによって、他人は自分とは違った視点をもっていたり、自分とは違う聞き取り方をする、同じことを聞いたとしても人によって理解の仕方が違うのだということを生徒は理解できたようである。「友達の見聞き参考することは自分の解答の手助けになりましたか」の質問にはほとんどの生徒が「手助けになった」と答え、「友達の見聞き参考することで新たな見方ができる」「同じことでも人によって気が付くところが違うのだと思った」「もっと他の人の見聞き参考時間が欲しかった」というような意見が多く書かれていた。

7 単元の考察

古文で「聞く」授業を取り入れることは教師にとってもある種の冒険でもあり、細部にわたる内容把握まで求めるのは生徒には酷なことであろうという思いもあった。けれども、「聞く」という活動の経験の少なさが抵抗感を覚える一因であり、経験を積み重ねれば古文を「聞く」ことはさほど難しいことではないことが理解できた。「『聞く』授業はポイントさえ押さえれば大丈夫」とは最終評価シートに書かれた生徒の感想である。「『聞く』授業が自分の役に立つと思いますか」の質問には9割の生徒が「とてもそう思う」「ややそう思う」と答えている。古文の授業で「聞く」能力を養うことは古典を親しむ態度を育成することにきわめて効果的であると考える。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、研究の仮説として、「文章の内容について自分の思いを話すこと、文章を聞くことや他者の思いや考えを聞くこと、話したり聞いたりしたことを振り返ることで自分の思いや考えを深めることができるであろう」と考えた。

「聞くこと」の領域では、聞く活動を「聞き分ける」「聞き入る」「聞き返す」「聞き浸る」の4側面にとらえ学習活動の進展に即してこれらの活動を組み込み、ワークシートの提示や助言など教師の適切な指導を行った。受動的な学習姿勢の生徒が多いなかで、生徒が学習活動に集中し、主体的な学習によって文章を読み深め、語句や文の理解から主体的な読み、そして文章の主題への思いや考えを深めていくことを目指した。その結果次の点が研究の成果として挙げられる。

さまざまな聞く活動に取り組んだ結果、朗読に傾聴する経験をもったことによって適度な緊張や集中力をもって学習に取り組んだ。

教材との限られた接点から自分なりに必要な情報は何かを求め、その情報を自ら再朗読を求めることによって得ることから、文章の内容への思いや考えを振り返ることができた。

文章の内容を自分でとらえ思いや考えを深めていく面白さや、学習の充実感や達成感を得ることができた。

「話すこと」の領域では、そのねらいを「聞き合う」ことに置き、自分の思いや考えを他者に的確に伝えそれに対する他者の意見や考えを聞き知ることを通して、自己の読みを振り返る課程で思いや考えを深めていくことを目指した。その結果次の点が研究の成果として挙げられる。

話すためには自分が文章をしっかりと聞いて感じたり考えたりしなければならないことについての生徒の自覚が深まった。

他者の視点を獲得することが自己の読みを深める手助けになったこと。

本研究の実践を通して、「聞くこと」に対して消極的な意識であった生徒たちが、意欲的・積極的に学習活動に取り組む姿勢を見せ、新たな発見をし、面白くて役に立つと感じ、理解を深めその成果を確認する経験をすることができた。日頃の授業でよりよく「聞くこと」の経験が、生徒たちの意欲・関心を高め、主体的に学ぼうとする姿勢を育てることができると考える。

2 今後の課題

研究に当たり、「話すこと・聞くこと」の活動を総合的に取り入れることを目指したが、生徒の学習実態から、とりわけ「聞くこと」の学習に重点を置いた学習計画を作成した。「話すこと・聞くこと」の学習経験が必ずしも十分でない場合に指導のねらいを精選することが必要であると考え。また、以下の課題が残されていると考える。

(1)「聞くこと」の学習活動を取り入れた授業実践のための授業計画を年間の指導計画の中に位置づけ、継続・発展させていくこと。

(2)「聞くこと」の授業に適した教材選定のための研究や生徒による振り返り活動のための自己評価・相互評価の在り方を工夫すること。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社